



TITLE:

藝術家と課税

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 藝術家と課税. 經濟論叢 1935, 40(6): 937-954

ISSUE DATE:

1935-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130600>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第六號

昭和十年六月一日發行

論叢

藝術家と課税

法學博士 神戸正雄

民族と社會の發達

文學博士 高田保馬

農産物の生産調整に就いて

經濟學博士 八木芳之助

時論

日米貿易の調整

經濟學博士 谷口吉彦

研究

經營分析と經營統計

經濟學士 蜷川虎三

フランスに於ける平價切下論に就いて

經濟學士 松岡孝兒

百貨店出張販賣存續の條件

經濟學士 堀新一

說苑

統計圖表について

經濟學士 高岡周夫

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第四十卷總目錄

經濟論叢

第四十卷 第六號 (通卷第百四拾號)

昭和十年六月發行

論

叢

藝術家と課税

神戸 正雄

緒言

文豪、坪内翁の逝去に對し、帝國議會が哀悼の意を表したといふ事は、我國に於ては洵に破天荒の快舉であつた。外國にては此種の事も左迄、珍しくもなく、文藝上の偉人は往々にして軍人、政治家と相並んで其々の國の功勞者として國家的國民的なる殿堂に祭られて居る。然るに由來、我國では國家的國民的の崇敬は大むね軍人、政治家に限られて、學者藝術家等の文化貢獻者には及ばない。併し國家の隆興、國民の躍進は決して單に軍人政治家のみの力によりては遂げられな

い。産業經濟上の努力者にも待つであらうし、更には文化指導的天才にも待たなければならぬ。見方によりては何れの者よりも大なる原動力となり推進機となるのは文化功勞者であつて、文化政策こそは本來、有らゆる政策中、最高地位を占むべきものである。此文化功勞者の中に就きても、我國では學者、宗教家、教育者に對しては尙ほ相當の尊敬を拂ふことを忘れないやうであるが、特に藝術家に對しては最も理解する所乏しく、むしろ或意味にては輕侮の念をいだく所である。併し其のやうな態度を續けて居ては、到底、優秀なる藝術を産み出すことは出來ず、國民は爲めに堅實なる發展を遂ぐることは出來ず、其文化を以ては到底他の國民を指導することも出來ないのである。其處で我國國民精神を充實し且つ我國の文化的地位を向上せしむる爲めには、もつと藝術に對して國家的優遇の道を講じなければならない。然らば我が課税の方面に於ては藝術を如何に取扱つたかと考へて見ると、實は由來、全く之に關して不注意であつたのであり。特別の優遇どころか、むしろ之を逆待した跡の歴然たるものがある。私は近頃、此點に氣付いたので、茲に之を指摘して當局者に反省の資を供さうと思ふ。藝術家の代表者としては文士、美術家、俳優を採る。茲に其等のものが現在我國の國及地方税にて如何に待遇されつつあるか、如何に之を改むべきかを論究するのである。

第一段 藝術家に對する國家の課税

藝術家に對する國家課税として特に問題となるのは、直接には、彼等の所得に對する所得税。間接には、彼等に關係交渉を有する營業者、例之、文士に對する出版業者、俳優に對する興業者、美術家に對する骨董商、への營業税、建築美に關するだけにての家屋税、藝術家用品に對する消費諸税などである。下に之を順次説明しやう。

(一) 直接課税としての藝術家所得の課税……先づ之を能力原則の見地から見る。

(A) 應能公平の見地から……

(い) 其所得の勤勞性……此所得の性質をば如何に見るべきかといふ事が第一に問題となる。が此は本來はむしろ勤勞所得に屬せしむべきものでなければならぬ。之を營業所得と見るよりはむしろ純勤勞者所得とすべきものである。随つては純勤勞者所得に對して勤勞所得なるが故に一割又は二割宥恕の特典を與ふるならば、其は齊しく此等の者にも與へて然るべきである。然るに我所得税法に於ては、固より藝術家にして或官公職を有し又は或私人に雇傭さるるの關係に立つが如きものにては、其所得を税法第十四條第一項第五號の俸給給料として、勤勞所得扱をするのであるけれども、然らざる以上、多くは獨立の自由職業者の所得として、同條同項第六號の「前各號以外の所得」とされ、つまり商工業者所得と同じに扱はるのである。營業所得と相並んで資産勤勞共働所得と見るのであり、少くとも勤勞所得の特典には與らぬのである。併し此はむしろ本來の性質に従ふて勤勞所得扱とすべきであらう。如何にも彼等の一部の者には相當の資産を

2) Schäffle, Steuern. B. T. S. 198, Heckel, Fw. I. S. 323 Tyszka, Fw. 2 Aufl. S. 160 Moll. Fw. S. 430.

積みたるもあらう。併し其の多數の者は何ものをも有たず、又は負債の方が財産よりも多く、假令彼にして資産を有つとて、其作物の價值、報酬の多少は必ずしも之とは關係なく、むしろ其人自身の才能、人的元素にかかるのである。此點に於て官公民吏などと異らぬのである。或は此等の者よりもより多くの人的元素によるといふて良い。其所得は、だからして、其人の生存及健康にかかり、其人的故障によりては中斷するを免れず、夫の營業所得のやうに、其所得が資産にもかかり、店舗にもより、主人に於て人的故障があつても他の者に於て或度まで補充し得らるるものとは違ひ、他日其人自身に故障ある場合の爲めに、平生健康なる間に、特に多くの蓄積準備を爲し置く必要もあり、平生其健康に特別の注意を拂ひ、休養營養にも特別なる費用を支出しなければならぬといふ關係にあるのである。だから之を營業なみに考ふるのは當を得ぬのである。

(ろ) 其所得の非連續性……又、此所得が一の勤勞所得だとしても、官吏等に比しても尙一層不利なる地位にあることを見逃してはならぬ。官吏等にありては一旦任官就職するときには、大過なき限りは相當永き年に互りて、場合によつては殆んど終身間にも互りて、其地位を保持し連續して所得を擧ぐる事が出来るのである。然るに此藝術家は大むね其所得に連續性を缺くのである。今日、今月、今年に得られたからといふて、明日、明月、明年もまた得られるとは限らぬのである。其が入り來つても亦前と同様とは限らぬのであつて、増すこともあるかも知らぬが、併し減ることもあり得るのである。だから今、或額の所得があつたとしても、其をば直ちに全く

費つてはならぬのである。之を合理的に經濟するとするならば、其中の相當大な額をば蓄積して、他日無収入であつたり、又は減收となつた場合に備へなければならぬのである。勿論、特殊例外の場合には其所得に連續性もあり増加可能性も大いではあらう。併し之を彼等の全體として大局から見れば矢張り非連續性が大きいのである。然るに現行法は全く之を見てやらぬのであり、何等此についての斟酌、宥恕的の處置を施さぬのである。で此點を精密に考へるときは、彼等藝術家の所得に對して一定割合の宥恕を與ふるか、又は反對に、定額俸給を連續的關係にて受くる者に特別一定割合の重課をすることにしなければならぬ。

(は)費用の控除………勿論、此藝術家の所得には少くとも其の俸給給料たらざる獨立の自由職業者の所得としては前記税法第十四條第一項第六號の所得としての課税を爲すことになるが、其純所得を見るにつきては、原則として前年中の總收入金額から必要の經費を引去ることになる。其れで彼等は、勤勞所得に於ける一割又は二割の宥恕を得ることは出來ぬが、此費用の控除によりて或度まで埋合が得られて居るとも見られる。併し實際果して彼等の地位に相當する如くに此費用控除が行はれて居るか何うか、其が問題なのである。税法では此にて控除すべき費用を説明して、種苗、蠶種、肥料の購買費、家畜其他のものの飼養料、仕入品の原價、原料品の代價、場處物件の修繕費又は借入料、場處物件又は業務に依る公課、雇人の給料、其他收入を得るに必要なものに限る、家世上の費用及之に關聯するものを除くといふから、特に例之、文士、美術家

が其材料を蒐集し、創意を鍊り、技巧を凝らすが爲めに、屢々旅行を爲し、斷へず休養を計り、場合によりては高樓に上りて浪費散財まですることがあつたとして、其費用は、之を收入を得るに必要な費用とするか、家事上の費用に關聯するものとするか。恐らく税務官としては大抵、之をば家事上の費用に關聯するものとして取扱はうとするのであらう。併し藝術家其ものを眞に理解するときには、彼等の作物とは一見無關係であるやうなものが、矢張り其作物の中に奥深く入り込んで居り、隨ふて普通人にては全く家事費ともいふべきものが、彼等にとりては收入の爲めの準備費其ものといひ得るであらう。たゞ彼等の浪費が凡べて必要費とすべきであるか、或は其一部のものはむしろ浪費に屬すとすべきか、其處の限界を明示することが六つかしいので、結局、通例は、收入の爲めに必要なものでないと認められることになり、つまり彼等の不利にまで、其費用が可なりにより詰めたものと決定されるであらう。此點に於ても藝術家の現行法上から見た一の不利があり、此點は將來、税法の運用上に於て、もつと彼等の爲め親切に又、寛大に取扱ふのが適當であらう。

(B) 文化政策上の見地から……元來、藝術は國民の向上、國家の發展を促進するの力あるものであつて、一方からいへば能く國家の教育力を補充し、他方、國民の力の源泉を成すものでもある。一國が優秀堅實なる藝術を有つてなければ、其の國家的國民的の大發展は望まれないのである。だから國家は文化政策に重きを置き、藝術の爲めに課税上、寛裕なる態度を示さなければなら

5) Bastable, Public finance. 3 ed. p. 97.

6) Biegeleben, a. a. O. S. 3.

らぬ。能力原則から至當とさるるよりも、より多く寛大なる處置を此にて講すべきものである。然るに實際は右にもいふ如くに、之につき能力原則から見て相當であるよりもより多く不利なる態度を示して居るのであつて、毫も文化政策上の特別考慮が拂はれて居らぬのは遺憾である。現行所得税法は別に經濟政策上の見地を顧慮して、例之、重要産業の爲めに寛大なる處置を採つて居るに拘らず、文化政策については何等の考慮をも拂はぬといふのは、あまりにも文化政策の價値を見縊るものとしなければならぬ。

(C) 經濟政策上の見地から……藝術は其自身、貨幣價値にては測るべからざる大なる効果を國家及國民の發展向上の上に齊らすものであるが、其ればかりではなく、其が洵に他國民の上に秀でたものたることの確實なるに於ては、作物は經濟價値ある物として國際交通の對象ともなり、其國の富を増殖するにも貢獻することになり得る。だからして之が獎勵助長は獨り文化的重要なみならず、經濟的重要をも有し、經濟政策上からも努めなければならぬ事に屬する。だから我國にて由來、藝術に對する課税上の取扱の寛大でなかつたことは、經濟政策上からも遺憾であり、隨つて之が改良の必要を認めなければならぬのである。

(D) 財政收入政策上から……藝術は國民の精神の上に知らず識らずの間に根強き印象を残すものである。で、もしも文藝的作物の中に納税につき好ましき暗示を與へることが出來たならば、其は收税上にも良き結果を齊らすであらうし、反對に文藝の中に、反納税の思想を植え付けたな

らば、取返しのつかぬ悪影響をも納税、随つて收税上に來たすであらう。嘗て文藝雜誌にて見たことのあるやうな文士の納税反感の告白の如き、決して良い結果を齎らすものとは認められない。僅かばかりの藝術家への壓迫の爲めに、其に幾倍した損害を招くのは決して賢明の策とはいはれない。收入政策上からも藝術家優遇につき一段と考慮し工夫しなければなるまい。

(二) 間接課税としての藝術家課税

(A) 關係する所の營業者への課税……よりしての藝術家への間接課税を考ふるのに、今度の議會で定まり、但し實行を十一年度以降に譲つた、地方の雜種税からして法人興業税を取除きて、之をば國税營業收益税及地方附加税に纏めたことの如きは、藝術家の交渉ある營業者の負擔を幾分か輕減することになりて、其れだけ幾分か又、間接に俳優の負擔をも輕減することになるであらう。尤も此間接影響が何れだけ大なるを得るかについては疑問があり、或は、そんなに大した事は出來ぬかも知れない。更にまた美術家 文士の交渉ある營業者にも同様な考慮を拂ふ餘地ありやを考ふると、其には格別斯くしなければならぬといひ得るほどのものはないやうである。まづ差當りては現狀にて満足すべきである。

(B) 家屋税(住居税あれば是も亦)……の輕重といふ事は、特に建築美に關するだけにて、美術家の仕事に影響する。其の重いのは彼等の藝術の發展を抑壓するものとしなければならぬ。此點から見ては、我國現行地方税にて間々地方によりて其れの重いといふことが遺憾の事である。

(C) 相續税(財産税あれば財産税も亦)…… 相續税財産税の課税物件中には、自ら美術品が現はれる。而かも此等の美術品は平生、有形収益を生じないから、之等に對し財産税がかけられ、更に相續に際して相續税をもちかけられては、其所有者としては可なり之を負擔するのに困らなければならぬ。随つては之へ遠慮なく課税せらるるときに、美術品の市價は自ら此なき場合よりもより安くなつて、結果としては更に、美術家を抑壓し、美術の發展を妨げることもなる。だからといふので、或は之を考慮して美術品を此にて免税しやうかといふことにもなる。我國には財産税はまだないから問題はないが、相續税にては家寶といへないだけでは美術品を宥恕しない筈である。併し此も藝術の保存向上の趣旨からいへば、其點からしての意義あるものだけになりとも宥恕の途を開くのも一案である。

(D) 消費税……も一つ問題となるのは、例之、使用者としての俳優から見た織物消費税、製作者考案者としての美術家から見た同じ織物消費税、使用者としての美術家から見た繪具等の關稅、映畫俳優から見た寫真機等の關稅などで、此等は單に收入政策や、國內産業保護の經濟政策からばかりでなく、文化政策からも考へ直すだけの値あるものでなければならぬ。

第二段 藝術家に對する地方の課税

地方税から我國の制度を見るときに、藝術家中、文士、美術家には格別の不利はない。此にて

8) Biegeleben, a. a. O. S. 25.

9) Schmidt, Nichtfiskalische Zwecke der Besteuerung, S. 96.

優遇はされぬが、別に逆待もされない。唯だ俳優が如何にも特に差別的なる逆待を受けて居る。

直接課税からも、間接課税からもさうである。此の如きものが果して當然視すべきことであらうか。

(一) 直接課税としての俳優税……見方によりて間接課税たる興業税も不都合であるけれども、此方はまだ忍び得るものとして、茲に問題とする俳優の直接課税は甚しき不都合なものとして非難されなければならない。今日我國に此の如き税が珍しくも存在するといふのは、嘗て俳優をば甚しき低き特種階級とした時代の遺物であつて、今日の如く彼等の地位が段々と向上して、一の藝術家として、一部、教育家としての尊敬乃至敬慕をも加へた時代には、むしろ時代錯誤税として見なければならぬものに屬する。今、此が不當なる理由を擧ぐれば左の如し。

(A) 能力公平の見地から……課税は本來一般でなくてはならず、平等でなくてはならぬとするのだから、他の職業よりも特別に、或特定の職業者に對する職業税たる此俳優税の如きは、實に根本的不公平を¹⁰⁾抱藏するものであると爲す。今少しく細分して之を説明しやう。

(い) 勤勞所得者扱をせずして資産所得者又は少くとも資産勤勞所得者扱すること……近代税にては應能課税といふことが重要視され、其見地からして更に資産所得勤勞所得差等課税が重視せられて居る。そして我國にても國税にては土地、資本、營業へは所得税の外に収益税をもかけつつ俳優には別にかかる収益税をかけずして、單に所得税だけをかけることにして、或度まで、

10) Green, The theory and practice of modern taxation. p. 214.

勤勞所得者としての俳優を應能公平に適うやうに課税して居る。たゞ所得税の内部に於て俳優等、藝術家に對し多少過重の負擔をかける嫌があるといふことは現行法の缺點として前に指摘した通りである。然るに地方税に來ると、此俳優といふ勤勞所得者に對して、俳優税といふ雜種税をかけて居り、其は勿論、人税たる所得税附加税、特別所得税、又は戸數割の外に課するのであるから、恰かも土地所有者が地租附加税又は特別地税を、營業者が營業收益税附加税又は營業税をば、人税たる所得税附加税、特別所得税又は戸數割の外に課せられて居るのと同じであり、つまり俳優といふ勤勞所得者が、地主や營業者の如き資産所得者又は資産勤勞共働所得者なみに特別重課されて居るといふことになる。此は彼等への應能課税としては全く過重なものとしなければならぬ。

(ろ)他の藝術家との相對關係上不當に重課しつつあること……かかる俳優重課といふことも、他の藝術家と均等ならば、まだ忍ばるるけれども、此地方税に於て藝術家の中につきては特に俳優をば特別に重課して居り、文士や美術家を除いて居るのは片手落であり、此等の同等藝術家との釣合上からも不當なる課税としなければならぬ。尤も彼等と或意味にての仲間がないのではない。即ち相撲、遊藝人、遊藝師匠、藝妓などと一緒に並行して課税しつつある。成程、俳優は此等の藝人と類似した點はある。けれども他面此等のものよりも特異な點があつて、文化を向上し、多少とも教化指導者たるの資格が備はる。特別に之を優遇して宜しい。文士や美術家と同

等扱して宜しい。文士、美術家に一般的なる地方人税を課する外、別に何等の職業税を課せぬとすれば、俳優にも此職業税を課しないとするのが至當でなければならぬ。

(B)文化政策上から……文化政策から俳優を見れば、彼等をば逆待するどころか、むしろ一層寛大に課税して然るべきものとする。一方、經濟政策上必要なだけにては課税上、種々なる宥恕が行はれて居る。其と同じやうに文化政策上重要なものにも出来るだけ思ひ切つて寛大にして良い。前にもいふ如く文化こそは人類としての最大切なもので、國民の向上、國家の發展の原動力であつて、經濟もむしろ此に比しては二次的のものとするべきものだから、此文化向上の支持者としての藝術家、俳優には寛大なる處置を採るべきものでなければならぬ。然るに地方が却つて之に俳優税を課して一層逆待をするのは、實に文化政策に反するものとしなければならぬ。で勿論此見地から俳優税を排斥しなければならぬ。尤も俳優の全部とするのは或は廣きに失するかも知れない。だとすれば、せめて其の中の有數の尊敬すべき代表的ものだけなりとも、名譽市町村民として俳優税は勿論、一切の人税（所得税附加税など）をも免除して敬意を表して良いのである。此點は有數なる文士美術家等にも及ぼして良い。其々の市町村にて一定數（例之、五人とか十人とか）を限りて、藝術家（又は其他の方面からも）中から有數な人を選んで、かかる優遇をして宜しい。但し斯くして有能なる藝術家を優遇するときに、課税の第一原則たる能力の見地からいふと、かかる天才は其人自身の努力のみによりては出來ず、先祖からの遺傳により

て受くる所大なるの結果として、特に大な所得を有つやうになつたものだから、其人自身から見
ては一の不勞所得ともせられ、一層重課するの理由ありともいはれ得るのだけれども、併し其に
も拘らず、文化政策の見地からいふと、却つて之をば優遇して、益々其才能を發揮せしめるのが
望ましいといふことになるのである。

(二) 間接課税としての演劇興業税……は果して至當なものか何うか。此には長所短所があつて、¹²⁾
一概に不當ともいへぬが、随つて恐らくは之が存續を認むる外なしといふ事が出来るが、併し其
も弊害の相當に多いことから、重課に過ぎぬやう、特に注意しなければならぬものとはする。
試みに其長短の要點を指摘せん。

(A) 長 所

(い) 財政收入上……からいふと、(1) 此興業税が兎も角一の收入とはなり、現下の我國の地方
の如く、財源に缺乏を感じることに甚き場合には、特に之とても止めることは出来兼ねる。新
しく起すとすれば、弊害もあることであり、躊躇しなければならぬけれども、既に多年取り來つ
て居り、今茲に此財源を失ふのは忍び難しとするのである。(2) そして此が收入には増減動搖が甚
しく屈伸力を缺き、收入を増さうとしても減さうとしても意の儘にならぬものだともいふが、併
し大體、文化の向上、特に經濟の發達に伴ては、益々其隆昌を來たし、收入の自然増加を期し得
るものである。此事も亦た、此税の一の長所としては見なければならぬ。

11) Brown, The taxation of unearned incomes. p. 41.

12) 拙、租税研究、六卷、320以下。

(ろ) 公平課税上……此税は實に一の娛樂税であり、假令義務者を興業者としても、其は唯だ利用者¹³⁾を課する爲めの手段としたもので、之を其興業者から見物人に轉嫁せしめやうといふのである。で此は、かかる見物人即ち娛樂者の娛樂消費を課する消費税として、一の奢侈課税とし得る。然るときは此奢侈税が消費者の能力に應じたる税として何程かの意味あるものとなる。娛樂を爲し得る者は、之を爲し得ざる者に比して比較的餘裕ありとはしなければならぬ。隨ふて其處に税を擔ふの餘力がありと爲し得るのである。此が其局部的消費のみを見て課するから、人々の全き能力に對しては必ずしも公平ならずとはいはれるが、併し消費の性質から見て特に相當なる能力の表現したものである。として課税するの理由はあるのである。

(は) 社會政策上……からいふと、(1) 人々が或度の娛樂を爲すのは、人生を豊かならしめ、人生に潤あらしめるものとして無下に排斥し去ることは出來ぬけれども、人が之にあまりに多く耽ることは、人をして堅實なる生活を爲さしめる所以ではない。だから之が享樂は質と量とに於て相當に制限せられて、人をして之につき反省せしめなければならぬ。之への課税は之が禁止でなくして、之が反省を喚起し、之が享樂を調節する所以である。此の如きは享樂する人自身の生活を堅實にして、延いて其社會をも健全ならしめることになるのだが、かかる享樂の耽溺が之を享受し得ざる、恵まれざる階級の反感を刺戟することともなるので、此點からしても享樂者に於て反省し遠慮することが社會の平和を招來する所以である。かかる意味にて此税が何程か社會政策

13) Conrad, Fw. 9 Aufl. S. 274.

14) Terhalle, Fw. S. 501, Shirras, Public finance. p. 400.

に貢献するのである。(2)他方、かくして得られたる収入が社會救濟事業費を一層充實することによりても、社會政策に資することになるのである。

(に)課税技術上……からは、此税が實行上、そんなに六つかしくはない¹⁵⁾。或は入場券税としても良く、興業者税として其總收入又は純益への%課税としても良く、又は外形標準課税としても良い。何れにせよ、之が適當なる課税方法は之を見出すことが、そんなに六つかしくはないのである。

(B) 短 所

(い)財政收入上……には、其收入に動搖性があり、世の景氣の好否によりて増減するを免れず、豫定の如くには收入の得られないことの起り得るといふことが避けられない¹⁶⁾。

(ろ)公平課税及社會政策上……からいふと(1)此税の興業者から消費者への轉嫁が必ずしも豫期の如くならずして、却つて或は營業者をして過當なる負擔に苦しましむることともなり得る。特に此課税方法が興業者の總收入に對する税となつたり、外形標準税となつたりして、其純益なき場合にも課せらるるときに著しい。そして此興業主が負擔すること自身が本來の立法者期待には反するのであるし、又此興業者が微力なる場合には、勢ひ其負擔をば俳優といふ藝術家に轉嫁して、其が更らに微力なる場合の如き、彼等の生活をドン底にまで低下せしめる。文化指導者ともいひ教育者とも見るべき俳優が社會の最下層に落込むことになる。社會政策上にも非常に寒心

15) 拙、租税研究、六卷、333以下。The tax research foundation, l. c. p. 68 &c.
189.

16) Jensen, Public finance. p. 308.

すべきことだが、公平の負擔からいふても不當である。(2)加之、假りに此税が消費者に轉嫁されたとしても又は之に歸着したとしても、此興業に關する娛樂は可なり下級者にも及ぶものだから、此が負擔が可なり下級者に及ぶことになり、如何やうに課税方法に加減を行ふたとしても、全體上は、下級者に其能力に比し割合に重き負擔となるを免れぬ。其は實に此税に限らず、消費税共通の弱點だ。そして此下級者過重といふことは應能公平上不當なばかりでなく、社會政策上にも好ましくない事である。

(は)文化向上及福祉増進政策上……(1)前記の收入、公平、社會政策上の缺點は尙、消費税共通の弱點として忍び得る。處が此が最重大な非難は其文化政策に反するといふことである。此税が藝術家を抑壓し、藝術を壓迫して、文化の進歩向上を妨げるといふことは、洵に金錢に見積り難き大な損失である。此が一の娛樂たり奢侈消費の一表現たるだけに何ほどか課税の理由は成立つけれども、反面に、此が文化產物であり文化表現であり、教化手段でもあるといふに於て、助長こそすれ、抑壓してはならぬものとしなければならぬ。勿論、演劇の中には社會を不良化するものもある。併し其れだけでは十分に取締りを嚴重にし、益々改良を計らなければならぬ。少くとも相當の取締を行ひ、全體上差支なきもののみを演出せしむべきであり、既に然る以上は、むしろ之を助長して然るべきであるのに、之を抑壓すべき效果ある課税を爲すは文化政策には反すとしなければならぬ。(2)も一つ此娛樂に對する見方として見落してはならぬ點は、娛樂が夫の

文化的教育的意味を離れても、一の休養として人生に必要なものだといふことである。そして此休養といふことが人類幸福の一大成分であり、之なくしては人生は充實なき、空虚なものとなり、又は地獄のやうなものになつてしまう。人が朝から晩まで働いてばかり居たとしたら、何たる人生となるであらうか。想像するさへ痛ましい。かくては殆んど機械化し、石化したる人生となるであらう。かくては人生に潤もなければ、もつと向上しやうといふ、文化的努力、經濟的努力なども起り得ぬ。だから人々の福祉を増進せんとするとき、人々に休養の餘地を與へなくてはならず、演劇は實に此に恰好の機會を供するものである。之が課税は即ち此休養の抑壓といふこと¹⁸⁾になるのであり、其が此税の一の弊害であるのである。

結 論

以上要之 元來、課税が文化に影響することは重大で、藝術と課税との關係の如き相當に考慮して然るべきにも拘らず、從來の財政及租税理論にてはあまり此點に目をつけなかつたのである。私自らとしても是迄、此點に不注意であつたことを自ら恥入る次第である。かくして藝術家は本來は尊重し、もつと寛大にし優遇すべきに拘らず、却つて、當さにあるべきよりも一層逆待して居つたのである。併し租税は單に財政收入上の見地や、純能力の見地にのみ拘泥すべきものではないのであり、廣大なる公益の見地から考へ、特に其にて文化政策を重視して良いのである。藝

18) Shirras, l. c. p. 399.

19) Biegeleben, a. a. O. S. 25.

術家は一國文化の向上者であり支持者であり、屢々教育者以上の教育者でもある。國家的精神、國民的精神、國家發展の爲め努力するの精神を鼓吹するに於ても彼等の眞劍なる共力なくしては能く成し遂げられないのである。我國の課税方法が尙ほ幾多の缺點を有つけれども、此に指摘する點に於ても尙ほ反省し改良すべき或ものを殘すといふことは決して見落してはならないのである。そして其は國税に於て然りであつて、地方税に於ても亦然りであることを見出すのである。